

『天意はここに実在する』

～天御中主神示集IV～

【おわりに】

本書の特徴の一つは、「自然体」の探究であろうと思います。「自然体」で居るということは、「大宇宙大自然の理法」に則って生きているということですが、これは、「悟り」の根幹になるものでもあります。

仏教的には、「中道」と云われるものであり、その実践のために、本書の中には、「八正道」の「反省」も説かれています。

「光明思想」も、「反省」も、「哲学的知性」も、「与えつづける愛」も、「中道」の「自然体」を探究しているという点において、本来、同一の「真理」であり、それ故に、どれも大切であり、どの角度から探究しても、同じ一本の「道」に行き着くことが、本啓示集の中で実証されていることと思います。

また、物理学的な「次元構造論」も、心のあり方と靈界のあり方に則って、哲学的、科学的に洞察されていますが、この考え方も、近年、良識化してきたものであり、「唯神実相哲学」とも両立するのであるということが述べてあります。

さらに、本書の中で特徴的なことは、「神」が、生々しい「現実」の「苦界」の中で生きている私達をあたかも背負ってゆかれるように、一貫した愛と、慈悲と、光明信念と、積極性をもって語られていることあります。その一篇一篇の真理の中に、生き生きとした熱い温かい血のこもった真の光明の「ロゴス」を感じます。

この一貫した愛と慈悲に満ちられた方が、「神」御自身であることを、畏敬の念をもって感動し、常に神の御心を御心として、共に「現実」の「苦界」の中で真に勝利し、成功し、繁栄してゆきましょう。

あらゆる面において、すべては善くなつてゆくしかないのであります。